

北九州PCB廃棄物処理施設の操業状況について

処理対象物の処理状況（詳細は別添 1 参照）

表 1 平成 21 年度から令和 6 年 3 月末までの処理状況（試運転物を除く。）

		北九州事業 エリア	豊田事業 エリア	大阪事業 エリア	合計
安定器及び 汚染物等	処理重量①	3,690t	2,862t	3,704t	10,256t
	処理対象重量②	3,690t	2,862t	3,704t	10,256t
	処理率 ①/②	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(1) 安定器及び汚染物等

事業終了準備期間期限となる令和 6 年 3 月末をもちまして、北九州、豊田、大阪の各事業エリアにおける処理対象重量をすべて処理いたしました。

(2) 運転廃棄物類（事業所間移動による処理状況）

運転廃棄物につきましても、(1) 同様、令和 6 年 3 月末をもちましてすべての処理を終了いたしました。

なお、大阪事業所及び豊田事業所から、運転廃棄物の搬入・処理を行い、年度別搬入・処理量は、下表 2 のとおりとなりました。

表 2 平成 27 年 10 月から令和 6 年 3 月末までの運転廃棄物の搬入・処理状況（単位：t）

年度 事業所	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
大阪	1.9	12.9	10.7	10.4	16.2	7.3	8.1	6.8	10.7	85.0
豊田	1.6	8.2	8.5	6.4	6.3	12.4	24.7	6.1	7.0	81.1
合計	3.5	21.1	19.2	16.8	22.5	19.7	32.8	12.9	17.7	166.1

(注1) 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある

(注2) 合計重量にドラム缶重量 67.7t を含む

北九州PCB廃棄物処理施設の操業状況について

令和6年12月31日現在

1. PCB廃棄物の受入状況について

表-1

	安定器及び汚染物等 (kg)			
	全体	北九州 17県エリア	豊田事業 エリア	大阪事業 エリア
平成16年度	—	—	—	—
平成17年度	—	—	—	—
平成18年度	—	—	—	—
平成19年度	—	—	—	—
平成20年度	—	—	—	—
平成21年度	15,083	15,083	—	—
平成22年度	173,717	173,717	—	—
平成23年度	290,897	290,897	—	—
平成24年度	506,549	506,549	—	—
平成25年度	622,785	622,785	—	—
平成26年度	766,347	766,347	—	—
平成27年度	504,380	282,449	107,077	114,854
平成28年度	851,844	199,670	366,720	285,454
平成29年度	752,245	156,719	308,291	287,235
平成30年度	908,656	152,069	342,926	413,661
令和元年度	1,104,625	167,869	305,002	631,754
令和2年度	1,471,883	213,546	472,006	786,331
令和3年度	1,232,530	92,616	404,203	735,711
令和4年度	816,017	20,432	435,304	360,281
令和5年度	238,928	29,285	120,855	88,788
合 計	10,256,486	3,690,033	2,862,384	3,704,069
試運転物	39,100	39,100	0	0

(注) ・ 試運転期間中の数量は最下段に記載の通り。
・ 安定器及び汚染物等の重量には缶重量を含む。
・ 平成30年度以前の数値は小数点以下を切捨てた数値に修正。

2. PCB廃棄物の処理状況について

表－1

	安定器及び汚染物等の 処理重量(kg)
平成16年度	—
平成17年度	—
平成18年度	—
平成19年度	—
平成20年度	—
平成21年度	10,341
平成22年度	144,276
平成23年度	283,343
平成24年度	497,725
平成25年度	613,181
平成26年度	729,606
平成27年度	517,656
平成28年度	803,387
平成29年度	787,957
平成30年度	899,029
令和元年度	1,077,220
令和2年度	1,417,661
令和3年度	1,420,159
令和4年度	783,815
令和5年度	271,130
合計	10,256,486

(注) ・試運転期間中の数量を含まない。
・安定器及び汚染物等の重量には缶重量を含む。

(参考) PCB処理量

	純PCB処理量(Kg)
平成16年度	9,250
平成17年度	55,754
平成18年度	67,737
平成19年度	78,553
平成20年度	67,615
平成21年度	150,955
平成22年度	249,323
平成23年度	293,566
平成24年度	292,342
平成25年度	297,744
平成26年度	228,766
平成27年度	140,272
平成28年度	156,110
平成29年度	178,550
平成30年度	67,534
令和元年度	46,846
令和2年度	29,390
令和3年度	16,406
令和4年度	5,929
令和5年度	0
合計	2,432,642

(注1) 試運転期間中の数量を含まない。
(注2) 平成30年度末までに変圧器類・コンデンサー類の
処理が完了したため令和元年度以降の実績は減少
(注3) 令和4年度で液処理設備を停止

3. 処理済物の払出状況について（試運転期間中の数量を含む。）

① 鉄（容器・鉄心）

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成16年度	7	11,293
平成17年度	55	117,306
平成18年度	57	126,568
平成19年度	55	125,695
平成20年度	43	119,193
平成21年度	101	209,550
平成22年度	128	307,715
平成23年度	162	348,674
平成24年度	178	362,558
平成25年度	180	396,393
平成26年度	167	285,887
平成27年度	99	170,645
平成28年度	122	240,284
平成29年度	137	283,559
平成30年度	73	100,012
令和元年度	52	62,491
令和2年度	51	83,117
令和3年度	40	52,855
令和4年度	24	41,464
令和5年度	19	32,820
合計	1,750	3,478,079

② 銅

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成16年度	1	1,322
平成17年度	22	20,818
平成18年度	27	28,686
平成19年度	25	25,436
平成20年度	23	21,861
平成21年度	32	30,532
平成22年度	31	41,851
平成23年度	27	49,112
平成24年度	33	51,053
平成25年度	38	49,947
平成26年度	28	34,056
平成27年度	24	23,582
平成28年度	31	37,730
平成29年度	40	39,823
平成30年度	6	4,464
令和元年度	3	6,920
令和2年度	0	0
令和3年度	3	3,838
令和4年度	0	0
令和5年度	0	0
合計	394	471,031

③ 処理済油

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成16年度	9	121
平成17年度	78	919
平成18年度	81	971
平成19年度	88	1,054
平成20年度	81	958
平成21年度	121	1,392
平成22年度	210	2,420
平成23年度	238	2,798
平成24年度	227	2,655
平成25年度	230	2,749
平成26年度	188	2,244
平成27年度	118	1,416
平成28年度	132	1,570
平成29年度	156	1,869
平成30年度	65	780
令和元年度	56	672
令和2年度	49	588
令和3年度	53	621
令和4年度	29	348
令和5年度	1	12
合計	2,210	26,157

④ 処理済残渣（液処理固形物）

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成16年度	13	38,310
平成17年度	114	393,611
平成18年度	122	452,412
平成19年度	136	488,108
平成20年度	110	424,226
平成21年度	167	753,925
平成22年度	246	1,197,641
平成23年度	299	1,375,974
平成24年度	302	1,344,910
平成25年度	314	1,402,476
平成26年度	245	1,004,980
平成27年度	150	624,429
平成28年度	159	695,994
平成29年度	185	778,708
平成30年度	74	268,891
令和元年度	56	151,724
令和2年度	49	98,328
令和3年度	43	70,903
令和4年度	18	25,047
令和5年度	0	0
合計	2,802	11,590,597

⑤ 碍子

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成16年度	1	362
平成17年度	8	3,468
平成18年度	12	3,866
平成19年度	11	4,588
平成20年度	9	3,303
平成21年度	21	11,498
平成22年度	23	17,768
平成23年度	22	21,208
平成24年度	22	23,258
平成25年度	23	21,364
平成26年度	22	15,947
平成27年度	13	12,867
平成28年度	11	12,049
平成29年度	11	16,997
平成30年度	8	9,041
令和元年度	2	2,304
令和2年度	1	2,277
令和3年度	1	858
令和4年度	0	0
令和5年度	1	964
合計	222	183,987

⑥ プラズマ固形物

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成20年度	1	10,600
平成21年度	7	57,700
平成22年度	21	201,190
平成23年度	31	297,500
平成24年度	49	470,600
平成25年度	51	486,600
平成26年度	53	502,300
平成27年度	35	323,500
平成28年度	44	403,600
平成29年度	35	326,600
平成30年度	37	344,200
令和元年度	41	373,100
令和2年度	42	362,000
令和3年度	39	339,900
令和4年度	51	430,800
令和5年度	32	265,200
合計	569	5,195,390

⑦ スラグ

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成20年度	10	43,433
平成21年度	14	139,791
平成22年度	51	405,447
平成23年度	84	697,551
平成24年度	145	1,331,479
平成25年度	167	1,564,242
平成26年度	178	1,674,250
平成27年度	136	1,242,898
平成28年度	208	1,945,408
平成29年度	205	1,988,604
平成30年度	207	1,996,229
令和元年度	244	2,356,134
令和2年度	298	2,800,390
令和3年度	277	2,303,914
令和4年度	220	1,640,635
令和5年度	122	990,680
合計	2,566	23,121,085

⑧ アルミ・炭化物

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成20年度	1	198
平成21年度	17	22,409
平成22年度	17	33,060
平成23年度	20	45,223
平成24年度	20	45,143
平成25年度	22	49,704
平成26年度	22	46,575
平成27年度	16	30,587
平成28年度	13	25,978
平成29年度	18	36,272
平成30年度	9	17,775
令和元年度	1	852
令和2年度	0	0
令和3年度	1	468
令和4年度	0	0
令和5年度	0	0
合計	177	354,244

⑨ 廃アルカリ濃縮液

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成24年度	2	7,114
平成25年度	11	43,728
平成26年度	5	34,141
平成27年度	5	34,398
平成28年度	5	26,242
平成29年度	10	37,716
平成30年度	10	51,762
令和元年度	11	46,611
令和2年度	11	56,748
令和3年度	12	48,749
令和4年度	17	53,829
令和5年度	9	7,132
合計	108	448,170

⑩ その他

	払出回数(回)	払出量(kg)
平成16年度	0	0
平成17年度	19	5,960
平成18年度	36	18,579
平成19年度	21	9,558
平成20年度	9	8,295
平成21年度	44	25,100
平成22年度	31	18,191
平成23年度	48	43,431
平成24年度	41	35,741
平成25年度	48	33,872
平成26年度	62	43,345
平成27年度	29	18,383
平成28年度	55	36,256
平成29年度	75	37,422
平成30年度	62	25,144
令和元年度	55	24,511
令和2年度	74	186,622
令和3年度	65	167,186
令和4年度	52	182,568
令和5年度	30	99,625
合計	856	1,019,789

※バークライト(絶縁板)他

北九州PCB処理事業所 操業の終了について

1.事業所の歩み

事業開始

和暦（西暦）	主な出来事
昭和43年(1968年)	「カネミ油症事件」が発生
昭和47年(1972年)	行政指導によりPCB使用製品の製造中止、回収等指示



約30年間

※民間主導で処理施設の立地が試みられたが、全て失敗（39戦39敗）
 ※処理の停滞・保管の長期化し、この間にPCB使用機器の紛失・漏洩等による環境リスクの増加

平成12年(2000年)	高濃度PCB廃棄物の全国的な処理体制づくりに向け、北九州市に対して、全国で初めての拠点的広域処理施設の立地要請を実施
平成13年(2001年)	市民説明会を130回以上開催し、延べ約4400名が参加 市民の意見の募集を行う 北九州市における施設の立地が決定
平成15年(2003年)4月	「全国初」の事業として着工
平成16年(2004年)～	北九州PCB廃棄物処理施設（第1期）で高圧変圧器・コンデンサー等の処理を開始
平成21年(2009年)～	北九州PCB廃棄物処理施設（第2期）で安定器・汚染物等の処理を開始

2

北九州PCB廃棄物処理施設



3

事業期間の延長要請

和暦（西暦）	主な出来事
平成25年(2013年)10月	当初の計画よりも全国的に処理が遅れていることを原因として、北九州市にJESCO北九州事業所における処理の拡大と処理期限の延長を内容とする計画の見直しに係る検討を要請
平成25年(2013年)11月～平成26年(2014年)4月	北九州市が国からの申し入れ受け、74回の説明会を開催し、延べ1,874人の市民が参加
平成26年(2014年)4月	北九州市からの「再延長はしない」等の受入条件を全て承諾し、万全を尽くして対応すると回答
平成26年(2014年)6月	PCB処理基本計画を変更
平成28年(2016年)	PCB特措法等を改正し、「使用中の高濃度PCB使用製品を高濃度PCB廃棄物とみなし 期限内の処理を義務化」、「代執行規定の追加」等、期限内処理に向けた規制等を強化。 以降、関係省庁や自治体、業界団体と連携して、コンデンサー等を約7万台、安定器等を約28万台掘り起こし。広報の活用や中小企業向け助成制度の活用も実施
平成31年(2019年)3月	北九州事業における変圧器・コンデンサー等の処理が全国で初めて完了




4

事業期間の再延長要請

和暦（西暦）	主な出来事
令和3年(2021年)9月	令和3年(2021年)度末までに北九州・大阪・豊田事業エリアの安定器・汚染物等の処理が完了できない見込みとなったことから、北九州市に対して、高濃度PCB廃棄物の処理の継続（処理期限の延長）に係る検討を要請
令和3年(2021年)10月～令和4年(2022年)3月	北九州市が国からの申し入れ受け、若松区を中心に38回の説明会を開催し、延べ900人を超える市民が参加
令和4年(2022年)4月	北九州市からの「期限の再々延長はないこと」を約束すること等の条件を全て承諾し、万全を尽くして対応すると回答
令和4年(2022年)5月	PCB処理基本計画を変更
令和5年(2023年)3月、5月、10月、12月	令和5年(2023年)度中に確実に処理を完了するため、処分委託契約等の期限や行政代執行の実施等に関する事務連絡を発出
令和6年(2024年)3月	1月末に搬入を完了し、3月末に高濃度PCB廃棄物の処理事業終了

5

PCB廃棄物の処理数量

	トランス（変圧器）
	2,801台
	コンデンサー
	58,950台
	安定器
	10,256トン

6

高濃度PCB廃棄物が無くなった事業場数

区分	トランス（変圧器） ・コンデンサー	安定器
中小	7,451	6,267
大企業	2,999	6,767
公共	1,648	5,827
合計	12,098	18,861

※事業場数には、一部重複があります。

※中小、大企業の区分は補助金使用の有無によります。
（一部学校法人を含みます。）

7

PCB廃棄物の最終搬入

令和6年1月31日 搬入が完了



北九州PCB処理事業所所員



荷下ろし



受入

8

PCB廃棄物の最終処理

令和6年2月16日 最後のPCB廃棄物の処理が完了



運転管理課メンバー



プラズマ制御室コンソール



2系プラズマ分解炉2



2系プラズマ分解炉1



2系プラズマ分解炉1

処理中のプラズマ溶融炉内

9

2.安全の為の取組



10

有識者からの提言／安全対策

ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会を設置

本委員会

共通的事項を検討

技術部会

PCB廃棄物処理技術に関する
最新の技術的検討

作業安全衛生部会

処理施設における作業従事者の
安全衛生管理について検討

PCB処理事業部会

地域条件に即した採用処理技術
等の検討や技術的助言等



北九州事業部会の様子

北九州PCB処理事業部会

豊田PCB処理事業部会

東京PCB処理事業部会

大阪PCB処理事業部会

北海道PCB処理事業部会

11

安全かつ適正な処理の監視

北九州市PCB処理監視会議

北九州市により、北九州PCB廃棄物処理施設におけるPCB処理が安全かつ適正に行われているか監視するために専門家や市民代表などで組織される会議が設置されました。



直近の第52回監視会議 令和6年2月

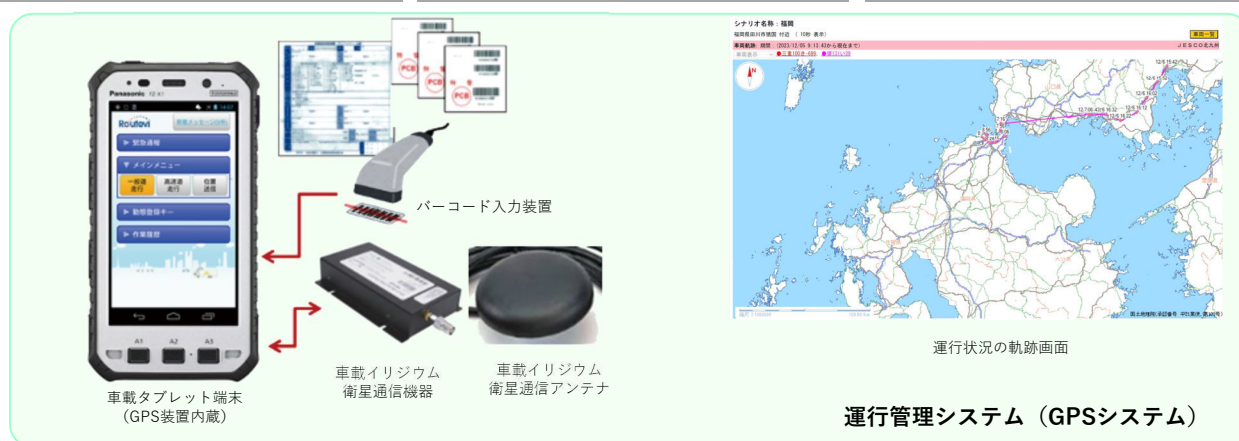
12

安全確実に搬入する為に／収集運搬

運行管理システムを導入

先導車を付ける

密なコミュニケーション



先導車



収集運搬連絡会

13

安全に処理する為に／安全対策

施設設計の思想
総合エンジニアリング

安全・確実な
P C B 処理方法
の採用

リスクマネジメント
の考え方に立った
多重の安全対策

処理状況の
情報公開

安全・確実な P C B 処理方法の採用

専門家からなる P C B 廃棄物処理事業検討委員会で処理方法等を検討
多重の安全対策 情報公開

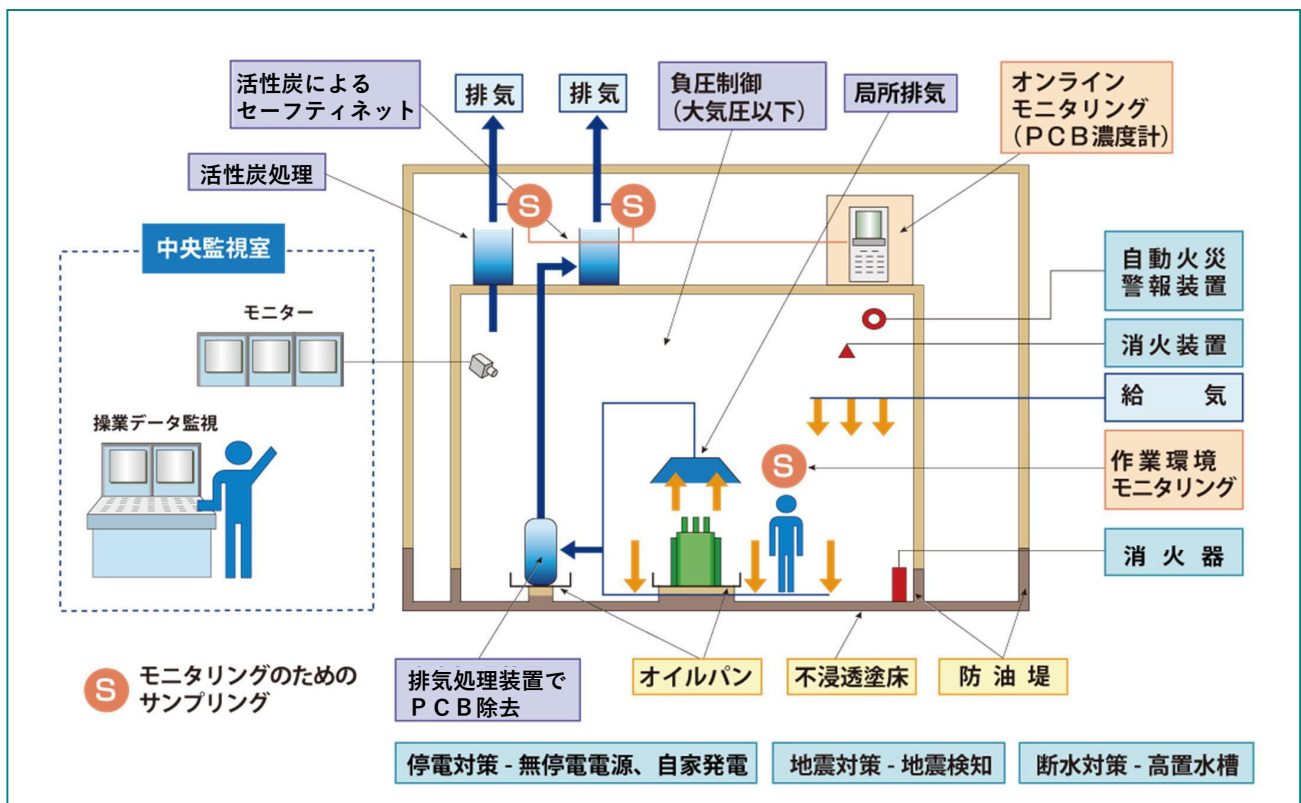
計画から操業まで積極的に情報公開

排気、残渣等による環境負荷の極小化とモニタリングによる確認
緊急時における対応策

地震、火災、浸水、停電、断水、事故などの様々な緊急時を具体的に想定した対策

14

施設における環境・安全対策

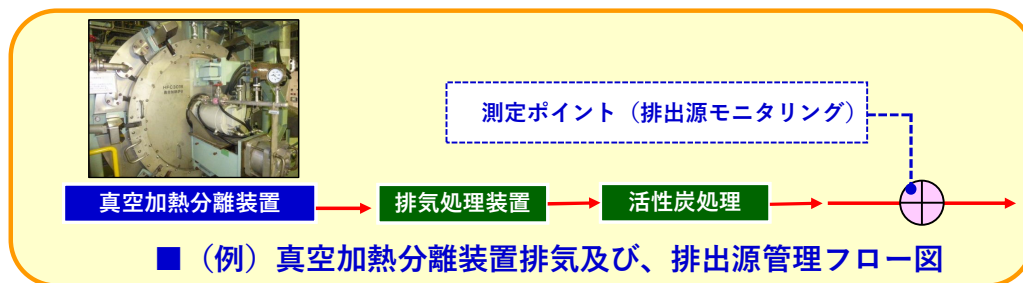


15

排出源の測定値は協定値以下でした

主な排出源モニタリング結果

排出源	項 目	測定値	協定値
真空加熱分離排気	P C B	不検出～0.0000012	0.005mg/Nm ³ 以下
	ダイオキシン類	不検出～0.002	0.08ng-TEQ/Nm ³ 以下
液処理排気 (1期、2期液処理)	P C B	不検出～0.000058	同上
	ダイオキシン類	不検出～0.0077	々
プラズマ排気	P C B	不検出～0.000039	々
	ダイオキシン類	不検出～0.013	々
換気 (1期、2期換気)	P C B	不検出～0.0016	々
	ダイオキシン類	不検出～0.061	々

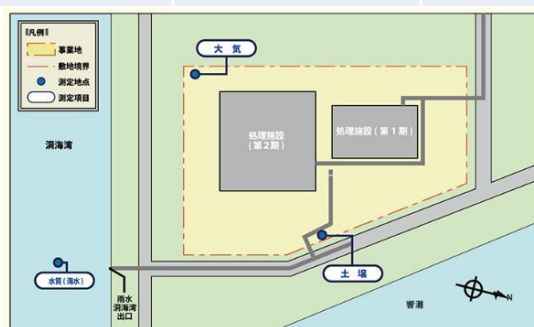


16

施設を適切に運転管理した結果、 周辺環境に影響を与えず処理を完了しました

周辺環境の主なモニタリング結果

要 素	調査地点	項 目	操業前測定値 (平成13～14年)	操業最終年測定値 (令和5年度)	(参考) 環境基準値等
大 気	敷地南西端	P C B	$0.0053 \times 10^{-3} \text{mg/m}^3$	$0.0003 \times 10^{-3} \text{mg/m}^3$	0.0005mg/m ³ 以下
		ダイオキシン類	0.52pg-TEQ/m ³	0.17pg-TEQ/m ³	0.6pg-TEQ/m ³ 以下
水質(海水)	雨水洞海湾 出口沖	P C B	不検出	不検出	検出されないこと
		ダイオキシン類	0.22pg-TEQ/L	0.11pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L以下
土 壌	雨水敷地 出口付近	P C B	不検出(平成16年)	不検出	検出されないこと
		ダイオキシン類	14pg-TEQ/g(平成16年)	1.6pg-TEQ/g	1000pg-TEQ/g以下



環境モニタリング測定箇所

17

3.地域への情報発信



18

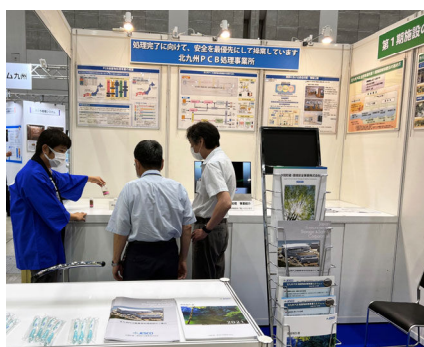
情報公開／地域とのコミュニケーション



情報公開ルーム



ホームページで
情報発信



エコテクノに出展



19

処理施設所見学／地域とのコミュニケーション

平成16(2004)年の操業開始から延べ20,926人見学



北九州市内高校生の見学



防護服の試着

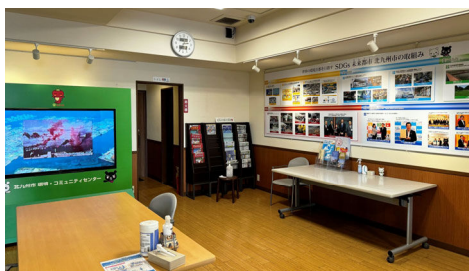


JESCO主催事業所見学
バスツアー

20

解体撤去情報コーナー／地域の皆様へ情報発信

若松区明治町銀天街にある北九州環境コミュニティーセンター内に設置



北九州環境・
コミュニティーセンター



解体撤去情報コーナー（令和元年(2019年)11月開設）

21

地域の皆様と／地域とのコミュニケーション

地域の行事に参加、事業所周辺の清掃活動を実施

